

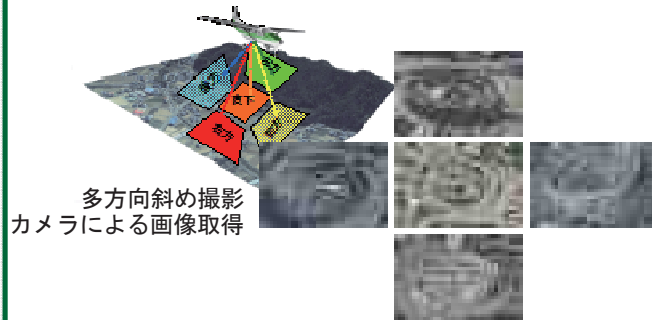


トータルサービスを提供

計測・解析・利活用の一貫したトータルサービスをワンストップで提供

計 測

施設情報の取得

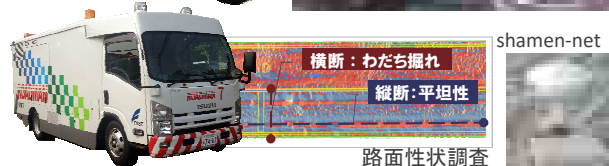


多方向斜め撮影
カメラによる画像取得

地上レーザ計測による施設データ取得



MMS車両

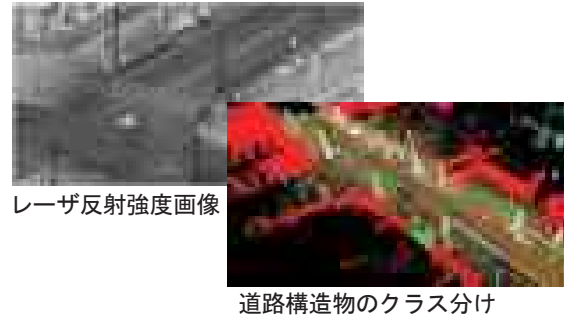


移動体計測車両
「ロードマン」

UAV

解析・処理

レーザ点群データの活用



レーザ反射強度画像

道路構造物のクラス分け

情報解析



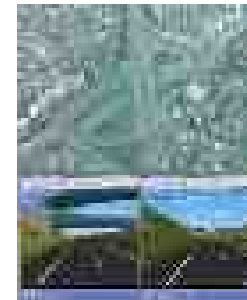
沿道情報解析

気象条件などのシミュレーション



利活用

施設設計業務



GISによる施設維持管理

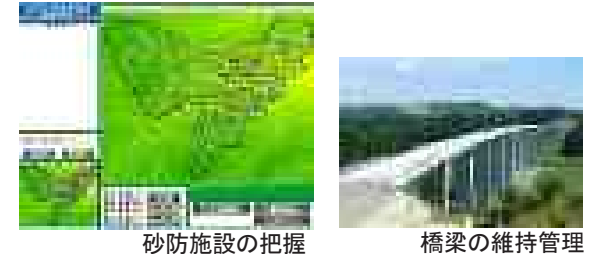


MMSデータによる
道路維持管理システム

低炭素まちづくりの支援・開発代行



長寿命化計画策定支援



砂防施設の把握

橋梁の維持管理

2. 農業分野での活用例

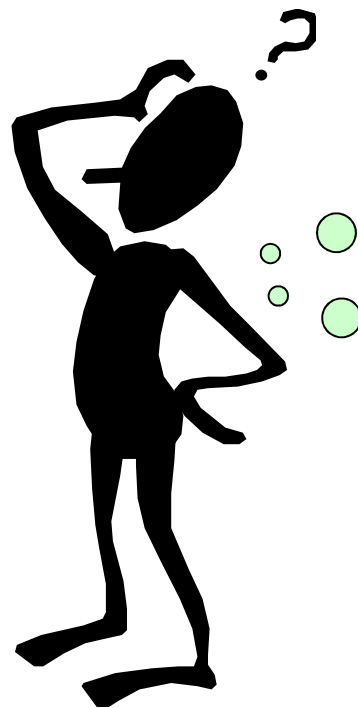




ユーザニーズを起点にしたサービス検討

- ・農地の過不足
- ・農地集約により手が行き届かない
- ・維持管理が難しい農地を手放したい
- ・**作業性を向上**させたい

- ・新規就農者の減少
- ・**後継者がいない**
- ・経営継承をしたいが相手がいない

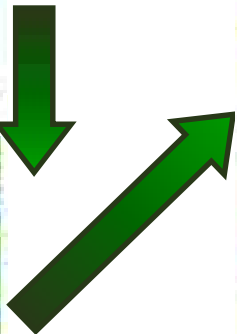


- ・TPP
- ・肥料や燃料のコスト
- ・気象の変化
- ・**作物の品質低下**

- ・圃場の状態を確認したいが、判別を行なえる人材が不足している
- ・**システムの管理・運用**やデータの**入力・修正・更新に係る人材が不足**している

**GISを導入したが効果が出ていない（活用できていない）
リモセンも検討したが欲しいタイミングでデータ取得できない・高い
そもそも本当に利用できるか分からない＝費用対効果はあるのか？**

牧草地診断の解析



■ 良
■ 不良
■ 裸地



不良植生割合	対策
10%以下	原則として更新しない、施肥量の増加で増収が期待できる。
10%～30%	今後の検討を待つ。
30%以上	施肥による増収ができず、更新する。

※不良植生割合：地下茎イネ科雑草と広葉雑草の冠部被度と裸地割合の合計
出典：根創農試 1983

草地更新対象圃場の選定・更新手法（全体 or 部分）などの判断に寄与する情報の把握が可能

圃場見学会の実施

- 参加者：JA職員，関係機関・研究所職員，生産者など
- 実施日：6/27（6/2-3），11/12（10/19） 括弧内は観測日

組合員への提示・アンケート

- 次年度の営農計画策定時に資料として使用
- 圃場の状態について確認・意見聴取



→ ユーザ開拓のため地道な普及活動も重要

分析結果について

- 圃場の状況とよく合致している
- 見れていない圃場の状況が分かって良い
- 更新対象圃場の選定が客観的にできる
- 肥培管理に利用できる

要望

- もっと細かく圃場の状況を把握したい
- 安価で継続的に情報を提供して欲しい

農業を支援する情報を提供することが可能

客観的かつ最適な営農指導が可能に

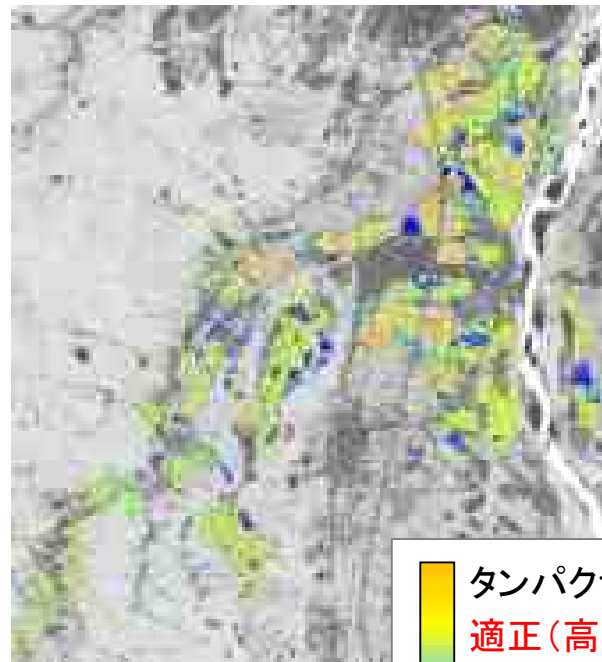


分野拡大: 水稲品質の事例

水稲のタンパク含有率
推定 出穂10日前

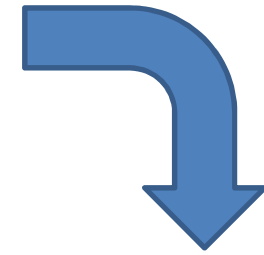


2014/07/31 (出穂10日後)



タンパク含有率高
 適正(高品質)
 タンパク含有率低

小麦の穂水分・収穫
適期判断にも展開



オペレーショナルな
診断システム構築



施肥の結果確認, 追肥の判断支援